



総合教育センターだより

Be Connected



センターマスコット センタ君

平成23年6月16日(木)
第27号(通算第110号)
京都府総合教育センター
TEL 075-612-3266

平成22年度の教育相談実施状況から

～相談の件数が急増してきています。～

総合教育センターでは、①教育に関する研究、②教職員の研修、③子ども・保護者・教職員の教育相談の3つの事業を行っています。今回のセンターだよりでは、教育相談の状況についてご紹介します。

センターでの教育相談には1 電話、2 メール、3 来所、4 巡回の4つの方法があります。

教職員のみなさまからの幼児・児童生徒についての相談(コンサルテーション)のほか、先生方ご自身についての相談(カウンセリング)も受け付けています。

1 電話相談 24時間対応



～多数は母親からの子育てに関する相談～

昨年度、1年間で2,525件の相談がありました。1週間で約50件になります。母親から、子育てのしんどさや、子育ての具体的な方法についての相談が13%と最も多く、次いで学校や教員への不満、不登校についての相談が寄せられていました。

2 メール相談



～子ども本人からの相談が大部分～

昨年度、相談件数は511件で、前年度に比べ1.6倍に増加しました。1週間で約10件です。

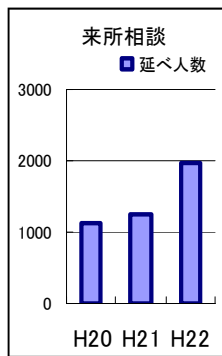
子ども本人からの相談が63%と大部分を占めています。とくに、女子中学・高校生からの友人関係についての相談が多く、また、子育てに苦しむ母親や、家庭環境のつらさを訴える子どもからの相談も多く寄せられました。メールで相談することで人とのつながりを確認する子どもたちも多いようです。

3 来所相談 ～相談件数が大幅に増加～

昨年度、のべ人数は1,971人と前年度に比べ2倍近くに増加しました。1週間で約40人になります。

相談内容の64%は不登校に関するもので、不登校の背景には複雑な家庭環境、虐待、いじめ、精神疾患等が関係しているケースが多くありました。

スクールカウンセラーを含め学校からの紹介事例が増加しています。センターと学校が連携して支援した事例の多くが大きく改善しました。



相談メールアドレス

sukoyaka@kyoto-be.ne.jp



4 巡回相談 ～丹後(大宮)会場での相談が増加～

巡回相談は各教育局等へ臨床心理士等が月1回程度訪問して行う教育相談です。丹後地域での需要が多く、相談件数のほとんどを占めています。相談者は60%が保護者で、他は教員や児童生徒です。

Q どのような方法で教育相談できるのですか?

A 総合教育センターの教育相談はどなたでもご利用いただけます。一人で悩まずに、電話・メールにて気軽にご相談ください。来所、巡回相談については、まずは、電話相談と同じ「ふれあい・すこやかテレフォン」にお電話ください。

京都府総合教育センター教育相談の申込方法

子どものことで相談したい。コンサルテーションを受けたい。子どもや保護者に教育相談を紹介したい。

来所教育相談

- 総合教育センター、北部研修所で臨床心理士、精神科医等が面接します。
- 広いプレイルームでのプレイセラピー
- 落ち着いた面接室
- 子ども、保護者へのカウンセリング
- 教員へのコンサルテーション

ふれあい・すこやかテレフォン

075-612-3268 (センター)

0773-43-0390 (北部)

巡回教育相談


- 乙訓・山城・南丹・丹後教育局、アグリタター大宮で、臨床心理士等が面接します。
- 子ども、保護者へのカウンセリング
- 教員へのコンサルテーション

平成23年度研修講座(9~2月分)の紹介

今号は、23年度後期(9月~2月)の特徴的な研修講座を紹介します。(詳しい時間等については、平成23年度「研修講座の概要」をご参照ください。)




大規模災害に備えた危機管理の在り方と防災教育について学ぶ!

番号	講座名	講座開催日	お薦めポイント
507	「京の子どもを守る」講座 	10月3日(月)	災害発生時に適確に対応できる危機管理能力の向上と、子どもの防災意識を高める指導の在り方について学べる講座です。

【会場】京都府総合教育センター 【予定講師】 京都大学防災研究所 林 春男 教授
神戸学院大学 船木 伸江 准教授



学校危機対応の在り方など危機管理能力を高める!

701 702	危機管理講座 	9月30日(金)(七) 10月7日(金)(北)	「学校危機対応ハンドブック」を通して学校危機対応への理解を深め、演習を通じて重大事案発生時の適確な対応の在り方について学べる講座です。
------------	---	----------------------------	---

【会場】京都府総合教育センター、京都府総合教育センター北部研修所

教育活動全体に人権教育が位置づけられた学校づくりを進める!

504	人権教育講座Ⅱ 	10月4日(火)	児童生徒の学力の背景にあるものを人権教育の視点から整理し、教育活動全体に人権教育を適切に位置づけた学校づくりについて学べる講座です。
-----	---	----------	--

【会場】京都府総合教育センター 【予定講師】大阪教育大学 成山 治彦 理事



小中学校の学級経営について指導力を高める!

505	小学校学級経営講座(大学連携)	11月8日(火)	「確かな学力」「豊かな心」「学ぶ集団」という3つの視点から、授業の基盤となる学級経営について考えます。
-----	-----------------	----------	---

【会場】京都教育大学 【予定講師】京都教育大学 浅井 和行 教授

506	中学校学級経営講座(大学連携)	12月1日(木)	学級経営の今日的課題の整理や具体的指導について、演習を通して学級経営の在り方を学べる講座です。
-----	-----------------	----------	---

【会場】京都教育大学 【予定講師】京都教育大学 高乗 秀明 教授




中学校の学力診断テスト等をもとに分析方法、授業改善の方策等を学ぶ！

番号	講座名	講座開催日	お薦めポイント
853 854	中学校学力の状況分析・活用講座	1月24日(火)(七) 1月26日(木)(北)	中学校学力診断テスト結果に見られる京都府の状況を理解するとともに、自校の分析・授業改善・校内研修の方策について学べる講座です。

【会場】京都府総合教育センター、京都府総合教育センター北部研修所



学校事務職員の業務について応用力を養う！

804	学校事務職員講座		10月7日(金)	心理学の分析の面からやる気をもてる工夫等を習得し、日々の業務への応用力を養います。また、援護制度を通じて修学・進路保障に対する理解を深めます。
-----	----------	---	----------	---

【会場】京都府総合教育センター 【予定講師】 聖泉大学 豊田 一成 教授 他

特別な支援を必要とする子どもの自立と社会参加を目指し実践的に学ぶ！




538	特別支援教育 「自閉症の理解（特別支援学級）」講座		10月25日(火)	特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の障害特性を理解し、具体的な事例を通して問題行動の低減や、効果的な指導の在り方を学ぶ講座です。
-----	------------------------------	--	-----------	--

【会場】京都府総合教育センター 【予定講師】 京都教育大学 佐藤 克敏 准教授 他

531	特別支援教育〈発展〉サテライト 「生きる力を育む授業づくり」講座 —各教科等を合わせた指導の実際—		11月10日(木)	各教科等を合わせた指導の基本的な考え方や、自立をうながす授業づくりについて、公開授業を通して具体的に学ぶとともに、専門家の講義によって理解を深められる講座です。
-----	---	--	-----------	--

【会場】京都府立宇治支援学校 【予定講師】 岩手大学 名古屋 恒彦 教授 他

526	特別支援教育〈発展〉 「思春期の支援」講座 —進路・就労に向けて—		11月17日(木)	発達障害等で様々な問題を抱える児童生徒の思春期の支援の在り方を考え、社会参加と自立に必要な自己理解のすすめ方について事例を通して学ぶ講座です。
-----	---	---	-----------	---

【会場】京都府総合教育センター 【予定講師】 ECC学園高等学校 金馬 宗昭 教頭
花園大学 小谷 裕実 教授



532	特別支援教育〈発展〉サテライト 「社会参加と自立」講座 —学校教育全体で行う自立活動—		11月25日(金)	自立と社会参加につながる教育活動である「自立活動」について、その改訂の趣旨や内容等を考えるとともに、学校の教育活動全体で行う「自立活動」の取組について、授業を通して実践的に学べる講座です。
-----	---	--	-----------	--

【会場】京都府立宇治支援学校 【予定講師】 関西国際大学 中尾 繁樹 准教授 他





～どんな小さな悩みでも相談できる体制を～



多くの相談事例から、保護者はわが子のすこやかな成長を願っており、学校に強い期待を寄せられていることがうかがえます。また、子ども本人からの相談では、家族や先生に相談することができず、一人で悩んでいることがうかがえます。

学校の対応として必要と思われるポイントを右にあげてみました。

- ①子どもの問題行動等の指導に際しては、**指導意図が伝わるように丁寧に対応する。**
- ②苦情が持ち込まれた場合、その苦情の表面に現れている「問題」の裏に隠された**「本当に訴えたいこと」**を十分聴き取ろうとする。
- ③どんな小さなことでも**相談できる体制**を整えておくとともに、欠席が続いたら早期に家庭と連携をとる。
- ④常に子どもの**人間関係の変化**にアンテナを向けておく。
- ⑤直接足を運び、直接会い、直接話し合うという**直接的な人間関係**に努める。

今後、次のような教育相談にかかわる講座を実施します。

「現代の子どものこころ」講座

～自傷や暴力などの「攻撃性」を中心として～

【日時】7月29日（金）13:00～17:00 【場所】京都府総合教育センター

「外」に向かう暴力やいじめ、「内」に向かう自傷や自殺といった、子どもの攻撃性の心理や、それらの意味・背景について考えます。

今、子どもたちはどんなことを考え、どんなことに悩みながら生きているのでしょうか。しっかりと「悩みを抱える」ことができているのでしょうか。わたしたちはどのように関わっていけばよいのでしょうか。

この講座では、思春期臨床の第一線で活躍されている島根大学の岩宮恵子先生に「子どもたちのこころについて」ご講義いただきます。

- 8月2日（火）「子どもと教職員のメンタルヘルス」講座
 - 8月3日（水）教育相談「理解する・関わる」講座Ⅱ
－認知と行動から学ぶ子どもの心－
 - 10月3日（月）教育相談「理解する・関わる」講座Ⅲ
－虐待等による子どもの心の傷つき－
- ※会場はすべて京都府総合教育センターです。

東日本大震災に係る教育活動支援報告

京都府教育委員会では、被災地における児童生徒等の心のケアや学校教育活動を支援するため「教育活動支援チーム」を福島県に派遣しており、センターからも所員が派遣されました。その経験から学校現場でも参考になるとと思われることを報告します。

自閉症をはじめとして障害のある子どもが環境変化に弱いことは知られています。避難生活の中で、多動傾向の強い子どもは普段以上に注意を受けることが多く、保護者も子どもも強いストレスを溜めこみます。

私が出会った多動傾向の強い子どもは、自由に動き回っている時よりも、適切な課題に取り組んでいる時の方が、表情も言動も柔らかくなるなど、子ども達にとって学習課題が重要であることを改めて感じました。

今回の大震災では、短期間にあわただしく家族や学校単位で広域に避難しており、障害のある子どもの支援情報をいかにスムーズに引き継ぐかが課題となりました。

災害に強い特別支援教育を考えると、日頃からアセスメントや個別の指導計画、関係機関との連携内容が記載された個別の支援計画が文書化され、すぐに活用できる状態であることが重要だと思います。



町全体が別の自治体に避難している学校もあり、子どもたちは、避難所から学校までの道のりを、シャトルバスで往復します。

センターからの一言

未来を担う子どもたちを育てる仕事。子どもたちや保護者の期待に応えたい。その志をいつも問いかけてみる。

